

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和2年6月2日 ～ 令和3年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 夜間中学における教育活動の充実に向け、生徒の実態等を踏まえた必要な環境整備の在り方について、次の事項に関する調査研究を実施する。</p> <p>I. 教育課程に関すること II. 広報・相談体制の充実に関すること III. 都道府県・市町村間の連携に関すること IV. 教職員の配置・研修に関すること VI. その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p> <p>【具体的な研究例】として</p> <p>①生徒の実態（高齢者や外国人など）に応じたカリキュラム・教材開発、および日本語指導の充実について ②フライヤー、ポスターなどを通じた広報体制の在り方と充実について ③専門スタッフ（通訳）を活用した教育活動、相談体制の在り方と充実について ④交流活動等を通じた学習による域内の中学校等との連携、および今後の夜間学級の在り方について</p>
調査研究のねらい	<p>主に次の点について取り組み、生徒の実態等を踏まえた教育環境の整備、充実を図る。</p> <p>ア. さつき学園夜間学級は主に日本、中国・台湾、韓国・朝鮮国籍の生徒が在籍している。また、従来からの生徒層に加え、近年、ネパール、パキスタン、インド国籍など、多様な国からの生徒の入学が増加してきている。これらの生徒の多くは、日本の義務教育の学習内容理解や社会・学校生活の前提となる日本語について、「読めない」「話せない」「書けない」などの課題を有している。このような状況を踏まえ、従来からの高齢者を主とした生徒の読み書きを中心とする学習・生活課題とともに、外国人生徒の抱えている諸課題解決のための効果的な学習環境や指導、および生活指導の在り方、すなわち、年齢や国籍等、多様な在籍生徒に対する必要な教育諸環境整備の在り方について研究する。</p> <p>イ. 年齢、国籍など、多様な在籍生徒の実態に応じた教材の作成や、学習指導に関する研修等を通じて、教科や日本語指導等の充実に向けた工夫・研究を行う。</p> <p>ウ. 日本、韓国・朝鮮国籍の生徒は高齢化に伴い、病気や生活等に悩む生徒が多い。その一方で、外国人生徒を中心に近年増加</p>

	<p>している若年層生徒には、高校等への進学を考えている者もいる。そのような実態を踏まえ、前者には教育機会確保のための教育相談や生活相談等、安心して学習できる環境を整えるために必要な対応、生徒に寄り添った支援の方法について、また後者には、進路を見据えた生活・学習相談と同時に、課外も含めた学習指導体制の充実を図るための工夫について研究する。</p> <p>エ. さつき学園は、国内で唯一夜間学級を設置している公立義務教育学校であり、在籍生徒の居住市は守口市を中心に大阪市、吹田市、摂津市、門真市、寝屋川市、枚方市、交野市、高槻市、大東市、東大阪市などに及んでいる。換言すれば、本学級は開設以来、広範な地域の夜間中学を必要とする人々に対し、義務教育の機会を確保するための重要な場となっている。しかしながら、公立夜間学級の存在がそれを必要とする人々、および社会全般に認知されているとはいいがたい現状があり、年に2回行っている生徒募集をはじめ、様々な機会に広報活動をすすめているが、通学可能な地域において義務教育の機会を求める人たちの全てに、情報が届いているとはいえない。そのような実情をふまえ、フライヤーやポスターの作成・配布等により、校区や守口市内をはじめ、近隣諸地域におけるより多くの人々に対して、長期的かつ効果的に夜間中学の情報を伝える広報活動について、その方法を工夫・研究する。</p> <p>オ. 本学級で行っている交流活動は、小学校・中学校等を中心に他団体を受け入れ、ともに学ぶことを通じて生徒の発表（外国人生徒の場合は日本語での発表）や、作文等への意欲を引き出すなど、生徒の学習活動において極めて重要な位置にある。同時にこの活動は、市内や近隣地域の小学校、中学校等の児童生徒や教職員、保護者等を通じた夜間中学への理解の深まりや、情報発信の機会ともなっている。そこで、本学級の特色である交流活動を通して、生徒の学習のより一層の深化・充実と同時に、地域社会と一体となった今後の夜間中学の在り方を研究し、発信していく。</p>
調査研究の成果	<p>ア及びイ. ウ. 学習や生活などの諸側面において外国籍の生徒および高齢化がすすみ病気等に悩んでいる日本、韓国・朝鮮国籍の生徒等、様々な生活背景を有する多様な生徒に対し、日常的に生徒の実情に即応した教材や啓発的掲示物、連絡文書等の工夫した作成や、教育相談・健康相談・生活相談、在住市の市役所や病院への付き添い等をおこなうことなど、生徒の学習環境を整えることを通じて、学習意欲とともに養護教諭に日々の体調を相談する生徒が増える等、夜間中学生の健康に対する意識も高まった。</p>

ア及びイ. 大阪大学大学院人間科学研究科教授・岡部美香先生を招聘し、多様化する夜間中学の教育活動の充実について「可能性としての夜間中学」というテーマで校内研修を実施したことにより、今後の夜間中学における教育活動を充実させていく観点や方向性、具体的な授業などの進め方などに関する教職員の認識を深めることができた。

ア及びイ. 外国籍の生徒など多様化する生徒の有する諸課題解決に資するべく、日本語指導関係図書を活用して、授業の進め方や教材等の工夫した作成のための研究を研修部中心に行なうことにより、教職員における日本語指導等のノウハウの蓄積、生徒における日本語学習等への集中力の高まりや「漢字を書くこと」、「助詞」など具体的学習課題に対する習得促進などを図ることができた。

ア及びウ. 「日本語理解に関する課題」を有する生徒に対し、通訳者を交えて行事や交流活動等で対象生徒たちの隣に寄り添い、適宜通訳することにより当該生徒の日本語理解が深まり、周囲の生徒との意思疎通が図られたことで、自らも積極的に発言することへと結びついた。また、そのことを通じ日本人などの従来から在籍する層の生徒も、多様な文化的背景を有する生徒への理解を深めることができた。

ア及びウ. 高等学校進学を考える外国籍の生徒およびその保護者との進路相談などにおいて、通訳者を交えることで日本の入試制度等について正確に伝え、様々な進路の選択肢を提供することができたと同時に、生徒・保護者の生活・学習上の考えや悩みなどについてもきめ細かに把握できたことで、生活指導および当該生徒の進路選択・決定をより円滑に行なうことができた。また、その過程で進路に向けた目的意識が明確になることで、課外における当該生徒の学習意欲が高まり、それに対応する校内体制をつくることもできた。

ア及びウ. 職員会議の中で「クラスの様子」を位置づけ、長欠者には各担任が家庭訪問・電話・郵送での連絡等、定期的に確

認を行ないつつ、生徒一人ひとりの課題への対応について教職員の共通理解を図ることを通して、教職員と生徒のコミュニケーションの質が深まり、一人ひとりの生徒において学校で学習しているという自己意識が高まった。

イおよびオ. 多様な背景を有する生徒一人ひとりの実態に応じた教材を作成することで、授業における関心・意欲のみならず、家に持ち帰り自主的に学習する等、夜間中学生の個々の学習に対する意欲が高まった。また、生徒の学習している場面や作品などの掲示することを通して、生徒の学校生活・自身の学習への関心意欲を高めることができた。さらに昼間の生徒や地域住民、交流団体等の来校者の目に留まるなど、外部への効果的な発信にもつながった。

エ. これまでの研究等の成果を盛り込んだポスター、フライヤー、リーフレットを近隣の各市教育委員会や関係諸機関との連携により、広く地域社会に配布するなどすることで、より多くの人々に対して、長期的かつ効果的に夜間中学の情報を伝える広報活動を行なうことができた。また、その結果、ポスター等を見ることによる問い合わせがあるなど、具体的な広報効果を見ることもできた。さらに、夜間中学の存在を表現した横断幕を作成することによって、より身近な地域社会への発信環境を一層整えることが可能となった。

エおよびオ. 学校行事や学習活動の様子などについて定期的に工夫した校内掲示、校内配布物の作成などを行なうことなどにより、学習における自己肯定感が芽生え、生徒集会や交流活動等の学校行事や授業において日本語による自分の思いの表現や発表機会の増加を図ることができた。また、生徒文集「まなび」の作成を通して、生徒自身の生き立ちを振り返り作文に書き表すことで、訴えたいことが定まり、交流活動や学習に役立つと同時に、学習成果の確認と発信を行なうことができた。さらに、社会状況の推移を見ながらの開催となった他市中学校等との交流活動を通じも、地域社会と一体となった夜間中学の存在を発信することができた。